

現地農業情報（沖永良部島・与論島）令和6年12月

（1）農業経営スペシャリスト派遣によるばれいしょ加工品販路開拓支援

11月26～27日に農業経営スペシャリストの派遣要請を行い、和泊町のバレイショ農家が試作中のポテトチップスについて、販路開拓等の助言指導を受けました。農場の現況を確認後、販売対象の明確化、SNSの有効活用法、具体的事例を交えたストーリー性のあるPR方法について助言がありました。特に「クラウドファンディング」の活用や各アンテナショップの利用方法などは、貴重な示唆となりました。今後も、担い手の経営発展や、法人化にむけた支援を継続して行います。

（2）「しまあかり」の普及を推進

令和6年度から、ジャガイモシストセンチュウ抵抗性品種「しまあかり」の普及を目的として、和泊町と知名町で20か所の展示ほを設置しています。これまでの実証結果から、「しまあかり」の農家からの評価は良好で、抵抗性品種の必要性も理解されているため、今回展示ほを引き受けた農家も協力的でした。今後も関係機関と連携し、普及拡大に向けた取組を進めていきます。



（3）テッポウユリ期待のホープ「スカイホルン」

JAあまみ知名花き部会では、県育成品種「スカイホルン」の試験栽培を行っています。12月10日に開催した知名町久志検での現地検討会では、対照品種「ひのもと」の草丈の短さや、試験品種「凜」の疫病発生があるなか、「スカイホルン」は草丈が15cmほど高く、疫病にも強いことを全員で確認しました。「来年栽培したい」との声も多く上がったことから、栽培面積の拡大が期待されます。農業普及課は「スカイホルン」栽培の定着と拡大に向け、関係機関と協力しながら今後も支援します。



（4）与論島さとうきび受託組合組織設立、総会が開催される。

12月5日、与論島さとうきび受託組合が設立され、同日与論町役場で設立総会が開催されました。この組合は、さとうきび受託者の確保、育成並びに与論島の持続可能なさとうきび生産体制を構築することを目的として設立されました。総会では、来賓、発起人のあいさつの後、組合規約の承認、役員を選任などが協議されました。組合の受託作業内容は、調苗、植付け、培土、中耕、除草、防除などです。農業普及課は関係機関と連携し、運営が円滑に進むよう、組織運営を支援します。

